

聖書日課『からし種』 2026.5.3-5.10

5月3日 (日) 申命記 32章	「天よ、耳を傾けよ、わたしは語ろう」(1節)、「それは、あなたたちにとって決してむなしい言葉ではなく、あなたたちの命である」(47節)。申命記最後の「モーセの歌」。荒れ野の旅を通して彼らが体験したのは、自分たちを「裁き、力づけ、殺し、生かし、傷つけ、癒す」、主の「生きた言葉」だった。今日「その言葉は私たちの命です!」と言えるようになりたい。
4日 (月) 申命記 33章	「アシェルのため彼は言った。アシェルは子らのうちで最も祝福される」(24節)。十二部族に対する祝福で、一番最後に名を呼ばれたアシェル。小さな部族で、アッシリアの侵略により失われた十部族の一つ。しかし、その系譜に連なる女預言者アンナがエルサレム神殿で幼子イエスを見つけて祝福し賛美した。小さき者だからこそ見出せる神の御業がある。
5日 (火) 申命記 34章	「主は、モーセをベト・ペオルの近くのモアブの地にある谷に葬られたが、今日に至るまで、だれも彼が葬られた場所を知らない」(6節)。「主の僕」モーセほど、神と人との間に立ち、心と体を引き裂かれるように苦悩しつつ歩んだ指導者を知らない。しかしながら「その墓を誰も知らない」という記述に、「誇る者は主を誇れ」(第一コリント 1:31)の御言葉が重なる。
6日 (水) ヨシュア 1章	「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない」(5節)。主の僕モーセの後継者として立てられたヨシュア。彼は若い時からモーセの傍らにいて彼の苦悩と葛藤を見てきた。「モーセと共にいたように」とは何と重たく、しかし力強い言葉だろう。ヨシュアもまた苦悩と葛藤の道を歩む。しかしそこに主は共に歩まれる。

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』 2026.5.3-5.10

7日 (木) ヨシュア 2章	「あなたたちの神、主こそ、上は天、下は地に至るまで神であられるからです」(11節)。二人の斥候をかくまったラハブの神告白。マタイ1章のイエス・キリストの系図では、このラハブとモアブの女ルツの名が続いて登場する。彼女たちの信仰と行動なしに「ひとりのみどり子」の誕生に至らなかったのである。今日、わたしに託された神告白を大切にできますように。
8日 (金) ヨシュア 3章	「全地の主である主の箱を担ぐ祭司たちの足がヨルダン川の水に入ると、…ヨルダン川の水は、壁のように立つであろう」(13節)。川の水は「壁のように」はけって立たない。しかし神に不可能はない。イスラエルの荒れ野の旅は最初も最後まで神の恵みなしには成り立たなかったのである。今日私たちにも「全地の主である主の箱を担ぐ信仰」が問われている。
9日 (土) ヨシュア 4章	「後日、あなたがたの子供が、これらの石は何を意味するのですかと尋ねるときには、子供たちに…」(21-22節)。ヨルダン川渡河の奇跡の記念としてギルガルに十二の石が立てられた(20節)。聖書の中の石は、私たちが次の世代に神の救いを伝え続ける使命を示している。私で途切れてしまわないよう、聖書を開いて神の救いを分かち合っていきたい。
10日 (日) ヨシュア 5章	「彼らが土地の産物を食べ始めたその日以来、マナは絶え、イスラエルの人々に、もはやマナはなくなった」(12節)。先にヨルダン川東に入植していたルベンとガドは「おびただしい家畜」(民32:1)を持っていたにもかかわらず、この日まで主からマナの恵みを受けていたのだろうか。何度も主から離れる人々をそれでも養い続けられた主の恵みに気づかされる。